

PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

私たちの幼い妹

まだ胎児だった私の妹は、決して愛らしくはなかった。が、私の妹だった。不幸にも、不明の環境性疾患だった。

この幼い少女は、笑うことも微笑むことも、走ったり遊んだりすることも知らなかった。見たり聞いたり愛したりすることも知らなかった。私は、他の妹たちにしてやっただと同じように髪をとかしたり、人形の服を縫ってあげたりすることもなかった。妹は、誕生日どころか生後二日目さえも迎えることはなかった。「無脳症です」「彼女には脳がない、人間とは認識し難い状態です。今のうちに中絶をして、これ以上悲しみを深くしない方がいいのでは…」と医者には言った。「娘に会いたいです、会って喜びを感じたい。それがほんのわず

かな時であってもいいんです。」母は答えた。

(無脳症とは、致命的な神経学的状態を指し、上部脳のほとんど、あるいはその全体の欠損をいう、呼吸や心拍をつかさどる脳髄は、そのまま残っている。)

三ヶ月後、父が電話で妹が生まれたことを知らせてきた。会いたければ今すぐにといい。私は病院に駆けつけた、が、生きている妹にはついに会えなかった。看護婦が妹を腕に抱いて連れてきてくれた。私たちの幼い妹に、みんなでこんにちわを言っ、そして、さようならをした。みんなのキスが終わると、妹は連れていかれてしまった。

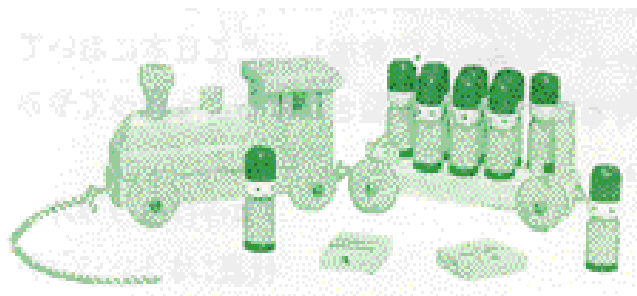
四つになる弟は、病院の売店で赤ちゃんにおもちゃを買ってあげるんだと言っていた。弟には、なぜ赤ちゃんにはもうおもちやがいらぬのかわからなかった。泣いている私

を父は抱きしめてくれた。

妹の人生は、わずか一時間半という短さだった。でも妹は、命についてたくさんのことを教えてくれた。彼女のこの世での短い命によって、私たち家族は、より強く結ばれることになった。どんな状況であれ、命というものは大切にされ、守られなければならないということを知った。子供を中絶することでは、子供は癒されない。障害児のために私たちが犠牲を払おう。彼らに犠牲を払わせてはいけない。

今、私には娘が一人いて、彼女も祖母の心の傷を少しは理解できるようになってきた。勇氣ある忠実な私の母に、神の祝福を。母を心から尊敬している。

US : P · L · A · M



日本国際

生命尊重会議

第二回国際生命尊重会議が、一九九一年4月25日～27日まで東京で開催されました。会議は、国際生命尊重連盟と日本プロ・ライフ・グループ、そしてオーストラリア、バングラデシュ、チリ、コロンビア、



イタリア、エジプト、アイスランド、イギリス、香港、ノルウェー、ペルー、インド、フィリピン、ケニア、マレーシア、モリタニア、タイ、ウルグアイ、ネパール、ナイジェリア、フランス、日本、そして合衆国の代表者たちの後援により運営されました。

三日間にわたる会議は次のような素晴らしい成功をおさめました。

ウィルク博士夫妻（ジョン氏とバーバラさん）に胎児の発達について、スライドを用いながら、原理をいかに教えるべきかについて等講演していただきました。『胎児の人権宣言』が日英両国語

で完成され、参加した人すべてがこれに口頭で署名しました。第二回世界生命賞が、国際生命尊重連盟会長のJ・C・ウィルク博士より産婦人科医の菊田昇博士に贈られました。菊田博士は病床の身をおして会議に出席され、受賞式では日本人の少女から花束が贈呈されました。その少女は、四年前に博士が養子手続きをしました。博士は、日本の養子縁組みに関する民法を人間的なものに変えるよう尽力されました。このように、日本プロ・ライフ・メンバーと国際生命尊重連盟が一つになって今回の日本の会議は成功のうちを終えることができました。

日本では、中絶は日常的に行われており、一日に平均4千～6千人の生命が奪われています。これが避妊の主な方法であって、法律でも中絶をはっきり認めているので、日本人のほとんどはこの問題に触れようとはしません。中絶の全体の68%は、28歳から44歳までの既婚女性で占められています。ウィルク博士は、会議の間のインタビューで次のような非常に興味深い所見を述べられました。合計特殊出生率（女性一人が生涯に産む子供数の平均）の2.1人というのは、人口の増減をもたらさない安定した人口を維持し得る子供の数とされています。今年の日本の合計特殊出生率は「1.5」人でした。この出生率では、人口維持にははるかに遠く、国民の高齢化が進み、若い世代の人口が減ってきています。日本の閣僚たちは、この事態を憂慮し、それに伴う経済的落ち込みを懸念しています。日本の政府は、出生率を上げるためにはどうするべきかをじっくりと検討する必要があります。中絶を制限することが一解決策に

なるということは言うまでもありません。」日本のプロ・ライフのメンバーにとって、運動は始まったばかりです。その目的は、すべての人間は受精から自然死まで生きる基本的権利を持つていることを認識させることにあります。その方法として次の四項目を挙げます。教育「地域的、国家的、国際的レベルで教育する。対象「年齢、人種、性別、身体的精神的能力に関わらずすべての人間。法的配慮「より大きいコミュニケーションが、社会的に弱い立場の人々を助けるとい保障をする。政治活動「生命尊重の議案が通過し、中絶賛成論、幼児殺しや安楽死を認める法律、提案が廃止されることを保障する。

今回の生命尊重会議ではまた、「避妊ピルRU486の市場からの追放を求め」決議も採択されました。

た。この恐ろしい薬は、フランスの製薬会社ルセル・ユクラフ社によって生産、流通が行われていますが、その親会社はドイツ系企業ヘクスト社です。

この薬は避妊剤ではありません。これは、心臓の鼓動がすでに始まった胎児を殺してしまつたものです。その上、母体にとつても危険なものです。母体の命まで奪つ可能性があり、かろうじて生き残つた胎児にも重度の奇形を残すことがあるといわれています。

全体として、今回の日本で開催された国際会議は成功に終わりました。私は、日本人の多くがプロ・ライフ・ムーブメントに参加し、ここ日本において胎児を守るために活発に働きかけるよう願つてやみません。

プロ・ライフ・
ムーブメント代表
ノボトニー・ジェリー

ABORTION

QUESTIONS & ANSWERS

中絶は何カ月目まで可能ですか？

中絶は妊娠22週目未満までしか行えません。それ以降の胎児を中絶することは、法律で禁じられているのです。また、12週(3ヶ月)を過ぎると、胎児に骨格ができてくるため、手術が大がかりになってしまいます。そうすると母体への影響も多くなり、子宮に傷がついて不妊症になるなど後遺症が出やすくなるのです。

中絶にかかる費用は？

中絶手術には、健康保険は使えません。費用は、病院や地域、入院の有無によつてかなりの差がありますが、だいたいの目安と

しては、3ヶ月以内で10万円前後、それ以降で15〜20万円必要です。

中絶手術とはどんな手術ですか？

妊娠3ヶ月までの初期の中絶法には、掻爬法と吸引法の2種類があります。どちらの方法も、鉛筆に似た形の頸管拡張器で子宮口を押し広げていく最初の段階は同じです。拡張器には直径1ミリほどのものから1センチほどのものまで、10数種類の太さがあり、これを細いものから順に入れていって子宮口を拡げていきます。また最近では「ラミナリア」という乾燥した海藻の茎を手術の前日に挿入しておくケースもあります。これは水分を吸って徐々に膨張して子宮口を拡げてくれるので、未産婦には特に安全な方法です。

この後、掻爬法では胎盤

鉗子とスプーン状のキューレットという器具で胎児を取り出し、子宮内の内容を掻き出します。

手術時間は10〜15分。吸引法では、電気掃除機のような吸引器で胎児や内容物を吸い取ります。医師によつてはこの後、キューレットで子宮の中を軽く掻爬する場合もあります。手術時間は5分ほど。

妊娠4ヶ月以降の中期になると、中絶の方法も初期とは全く異なり、入院の必要があります。まず、ラミナリアを数本、子宮口に入れます。数日かけてラミナリアの本数を増やしていき、最終的に4〜5センチまで子宮口を拡げます。そして、人工流産剤「プレグランディン」などを使って人工的に陣痛を起こし、数時間から数日かけて流産させます。

中絶は何回することができですか？

一般に何回中絶をする事ができるかという統計はありませんが、個人レベルで見ると過去に5回から7回も中絶したことがある人々がいます。

新約聖書

「・・天にまします父は、この小さな者の一人さえも滅びることを望まれない。」

(マテオ18:14)

その子は十八才

出合ったのは中学三年の十四才の時であつたけれども、それはもう、シツチャカ・メツチャカ、無茶苦茶に自分を傷つけるような毎日のさ中だつた。

タバコ、盗み、シンナー、異性交友、等々、その子が落ち着こうとしても、心ない男の子たちから電話や、窓の下で鳴らすクラクシヨンがそつとしておいてくれないのが憐れだつた。

朝方、疲れ果てて帰つて来て、昼頃までは泥のような眠りの中にいる時だけが安らぎの時であつたらうか、あどけなく清らかな寝顔に、訪れた補導員の私は声もよつかけず、何かに祈るような思いでその家を去つたことも幾度か。

何人かの男友達との交渉もあつた三年が過ぎゆくと共に、その子は変わつ

た。

好きな男の子と、自分の家の一室で同居して、男の子は、彼女の父親の仕事の手伝いを始めた。

珍しく(?)一月、二月、三月が経過した。

余り仕事の長続きしなかつた彼が、今度はやめずに続いている。

それと並行して、彼女のけわしかつた顔が和らぎ、子供から若い女へと足をかけた頃、みごもつたと彼女自身から告げられた。

いい意味の相互作用が二人の間に進行していたのであろう。

図書館へ一緒に行つてやつて、出産と育児の解りやすい本を選んで借りるようになつてやつた。

そんなある日、町内のシヨッピング・センターで一人で買い物に来ていた彼女に会つた私は、センター内の喫茶コーナーで何か食べさせてやるうと思つて連れて行つてやつ

たのだが…。

「コーヒーでえいろう」と言う私に「いや、私、紅茶がえい」と言つたのである。

「ええ?」という顔をしたら私に、彼女は少し大きくなりそめたお腹に右手をやつた。

「アツ」と思つた。

母の手であつた。少女の手ではなく、子供をいつくしむ母親の手であつた。

胎児への影響を、誰にきいたか気遣つてゐる彼女の顔は生命をいとおしむマリア様のようにも見えた。神のみ手は、ここにも現れてゐた。

出産の前祝いに、神谷美恵子著の「こころの旅」という本を贈つた私は、生まれ出づる生命を、孫の出産を待つような思いで待つてゐる。

(職業上匿名希望)

国内ニュース

『全国初のマイナスに』

厚生省が6日発表した昨年(1991)の人口動態統計で、高知県は全国で初めて生まれた赤ちゃんより亡くなった人の方が多くなり、自然増減がマイナスになつた。

統計によると昨年、県内で生まれたのは7182人、亡くなつたのは7683人で、自然増減はマイナス501人だつた。

県健康対策課は出生率が低い原因について、県人口のうち結婚適齢期の人口が少ないことをあげる。死亡については昨年はインフルエンザの大流行で、高齢者を中心に死亡者が大幅に増えたためとみている。

同課は、15-19歳が約6万人、10-14歳が5000人いることから数年後には

結婚適齢期を迎えて出生率が高まり、人口の自然増減がプラスに転じると期待している。

朝日新聞/1991.6.7

『先生にマニュアル』

高知県教委は、性教育の手引きを教員向けに作製、県内の322校の公立小学校へ配つた。すでに88年度には高校編を、90年度に中学校編を作製。性欲を満たすだけの対象として異性をとらえさせるのではなく、互いの違いを認め合い、協力しあふ人間形成を目指す、という。

各学年の指導事例をみると、1年生には赤ちゃんが生まれる時の様子や母親の苦しみ、生まれるまでの家族の気持ちなどを教え、3年生にはテレビや漫画に刺激的な場面があることを気づかせ、情報の受

けとめ方を考えさせる。初潮を経験する女子が出始める4年生は体の発育に伴って月経や射精が起きることを、6年生は男女交際のエチケットなどをそれぞれ学ぶ。

朝日新聞 / 1990. 6. 13

『かぜ薬並みの』

『自由な販売へ』

妊娠しているかどうかを自分で調べる検査薬を「一般用医薬品」として認める方針を、2日までに厚生省が決めた。来年夏には店頭で登場する。今回の決定で、新聞やテレビでの広告などが可能になりかぜ薬並みの自由な販売が展開されることになる。

妊娠検査薬は、妊娠時に胎盤から排出されるホルモンの有無を測定、妊娠を判断する。尿の中にごくわずか含まれるホルモンを、試験薬をひたした紙などで検出する。

朝日新聞 1991. 7. 3

『より悲しいことか?』

私は、決して人工中絶を推奨しているわけではありません。でも、育てられ

ない赤ちゃんを産むことは、より悲しいことだと思ふのです。あなたと、赤ちゃん、両方にとって、子捨てや、子殺しが、こわいのです。

河野美代子

「ティーンズ・ボディ

Q&A」

まだ十代であるにせよ、自分の行為には責任があります。育てられないから「中絶」という形で責任を取るのですか。中絶は子殺しです。育てられないのなら、確かに日本の社会制度はとも貧弱ですが、施設にあずける、養子縁組みをするなど、「産んで生かす」責任の取り方を選ぶべきではないでしょうか。それは、中絶とは正反対のはるかに前向きな責任の取り方、生き方と思ふいます。『いのちは地球

よりも重い』というのは、ただのファッションでしょうか。

プロ・ライフ

国際ニュース

【ブルガリアより】

ブルガリアからの報告によると、今年の初めに中絶が自由に行えるようになって以来、国内の出産率が急激に減少したという。その中絶率は、今やヨーロッパで3番目に高いといわれている。

【チエコスロバキア】

チエコスロバキアの共和国の一つであるスロバキア共和国の医師たちは、政府から全ての病院に出された通達に従い墮胎手術を拒否することができ

るようになった。病院運営者たちは、良心的参戦拒否者ともいふべき中絶手術拒否医師たちの申し出を受け入れねばならず、院内の仕事のスケジュールの調整を余儀なくされている。

【ハンガリーより】

16人のハンガリーの産科医たちが、「生命保護産科医」というプロ・ライフのグループを結成した。当座の主な目標は、産科の分野で働く医師たちの良心の自由を守る権利を確立することである。また、長期的な目標の一つとして、国内における中絶免除産科医団体を結成することを挙げている。

【ユーゴスラビアより】

最近承認を受けた、ユーゴスラビアのクロシャー

共和国憲法は、「全ての人間」に対してその生命の権利を認めている。憲法はまた、共和国内で、「特に母親を保護すること」を保障してはいるが、胎児に関してはなんらの具体的な保護をも与えていない。

【レイプ被害に勘違い】

シンガポール

レイプ被害者を救済する立場にいる人々が、レイプとその被害者について思い違いをしていることを、サンデー・タイムズ紙が報じた。

シンガポール大学が三年かけて五百十人の警察官、ソーシャルワーカー、弁護士、医者などを対象に行った調査から、レイプについて間違った思い込みをしている人々ほど、被害者を責めたり、その人の性的経験を問題にしたりすることがわかった。調査は

読者の声

二つのタイプ

最近映画「アース」を観た。小さな生命を守ることと内容は直接関わりないようにみえたが、実はその底に流れる思想が小さな命を守ることに基になるセリフが、実は小さな命を守ることに繋がると思う。それは、この世には二つのタイプの人間しかないので、〜「良い心で人と人を結びつけてゆこうとする人間と、ずさんだ悪い心で人と人の関係を切つてゆこうとする人間」とあり、この後者からこそ冷酷さゆえに中絶あり、戦争もあるのだろう。

長淵治雄

助け合っ心

主の平安

小さな生命が守られず、胎児を人間として認めず闇から闇に葬り去る事は、悲しく恐ろしい事です。「不用のものは消し去る」という行為は、他を蹴落として自分だけ得をしたい人間の弱さをむき出しにし、それが子供達の心に反映し、犯罪や家庭内及び校内暴力となつて表れているように思われる。

Sr 上野百合子

お手紙をありがとうございました。私が寄付をした理由は、私が好きだった人が女の人を妊娠させて、二度も中絶をさせたためだと思えます。一度目はまったく知らなかったのですか、二度目の時に聞かされて、「おろすから10万貸して」と言われました。中絶はいけないことだと教会のものに書いてあったので、マザー・テレサの支部の修道院に電話をして相談しましたが、彼はまったく私の言うことを聞かずに、「産んでも幸福になれない」と言つて、何の悪気もなしにもう決めたんだと言つて、結局おろしたそうです。私は彼を好きだったので、彼の子が欲しいとか、見たいとか思いました。神父さまは、そういう人はやめたほうがいいと言われたので忘れる

ようにしています。

神様は、人間が中絶をすることを怒ってるでしょう。戦争のために人が死ぬことは家族にとっても悲しみです。だけど中絶をしても泣かない人もいますよ。私の知っている人も7人その経験があるようです。でも、泣いたとも言わないし、平気な顔でいました。それは法律で認められているからだと思えます。そして法律を変えることは不可能のように思えます。それは、自己

中心的な人が多いから、子供が増えたら貧乏になるから、中絶は便利に思えるから、他の国の事は知りませんが今の日本は、私も含めて、お金に困っている人がほとんどいないから腐ってるのかも。お金のためじゃなくて、神様のためにという心になれたら、不可能でなくなるでしょう。プロ・ライフ・ムーブメント様がどのように私た

ちのために運動して下さいのかわかりませんが、私もささやかな祈りをして参加させていただきたいと思えます。

(匿名希望)

若者の声

心の底から

思いました

妊娠中絶のビデオを見て、大変心が動かされました。今までは、家庭の事情があるならば、中絶するのは仕方のないことだと思っていました。けれども、母親のお腹の中で、元気に動き回っている姿や、指をしゃぶっている姿を見て、そして、自分の命が危険だと知り、必死に逃げようとする姿を見て、中絶をすることは、殺人を犯すことと同じことなんだと、心の底から思いました。

(石井美紀)

産まれようとして

している

私は、今までに妊娠中絶のことについて深く考えることがありませんでした。でもこのビデオを見て、こんな小さな命でも、大切に尊いものだということがわかりました。母体の中には、必死で生きようとしている赤ちゃんを見て、中絶はあってはならないものだと思います。今から生きよう、産まれようとしている小さな命を、中絶によって、生を失うようなかわいそうなことはしてはいけなと思います。

(山下則子)

生きたいと

思っている

私はあのビデオを見て、「人の命の大切さ」を考え

させられました。いくらお腹の中の子供だといっても立派な人間なのに、その小さな命を断つのは殺人と同じことだと思えました。お腹の中の赤ちゃんが中絶をする器具から一生懸命に逃げている場面を見ると誰もが中絶はいけないと考えると思います。赤ちゃんは一生懸命に生きていたいと思っているのにそのことを全く考えずに中絶をすることはいけなと思います。

(下河奈津子)

《事務所だより》

暑い夏、クーラーの吐き出す熱い空気がますますコンクリート詰めの街を暑くしているようです。四方の窓を開け放した事務所、時々吹きぬける風に一息つきながらこの夏も半分が過ぎました。

7月13日、「生命尊重の日」実行委員会主催の第10回「生命尊重の日」の集いが東京でありました。木村治美先生の講演、そして生命尊重ビデオ第 弾が完成、上映されました。また、去る4月に開かれた「国際生命尊重会議」を機に『日本生命尊重推進協議会』が発足、会長に阿南成一氏が選任されました。

「いちばん小さく、弱い人に目を注ぐと世界は癒される」とジャン・パニエは言っています。中絶されてゆく胎児の沈黙の叫び声に耳をかたむける時、私

たち自身の癒し、平安が実現されてゆくでしょう。

プロ・ライフ・

ムーブメント